

普連土学園校友会報

第 112 号

令和7年(2025年)2月15日

発行：普連土学園校友会
住所：〒108-0073 東京都港区三田 4-14-16
E-mail：friends@f-koyukai.com
URL：https://www.friends-koyukai.com

責任者：松浦 栄子
TEL：03-3451-7700
FAX：03-3451-1959



普連土学園は、昨年創立137年を迎えました。忙しく過ぎる学園生活の中で、ふとした時に、その長さを振り返り、原点に立ち返ることがあります。昨年春に、高橋ローラさんという方が、事務室を訪ねていらっしゃいました。聞けば、ハワイからいらして、「曾祖母がこの学園の一期生(※注)なので、ぜひ一度学園を訪ねたかった」とのことでした。驚いた私は、中学校舎一階の史料室にご案内しました。ローラさんは、「自分の曾祖母は、高橋(旧姓樋口)鎮子とい、この学園の最初の三人(※注)の

A Journey into The Unknown 未知への旅

普連土学園教頭

佐藤 知葉

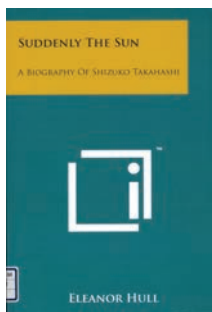
目次
クリスマス礼拝
校友会バザー
三代の校長先生に伺う
創立記念礼拝
八十歳になりました
クラス会報告

生徒の一人でした。卒業後、結婚してアメリカに渡り、12人の子供たちを育てあげました」と話して下さいました。史料室に飾られた、初期の学園が映る白黒写真を眺めながら、「アメリカで苦勞しながら立派に生きた曾祖母をとて誇りに思っている。その曾祖母の考え方を育てた普連土学園のことも尊敬している」と話してくださいました。私ほとても嬉しく、そして歴史が急に色を持つような思いで聞きました。ローラさんは、鎮子さんについて書かれた伝記をください、帰って行かれました。鎮子さんの伝記の第一章は、A Journey into The Unknown (未知への旅)というタイトルです。当時たった10歳だった鎮子さんが親と離れ、千葉から東京のこの地へ、泣きたい思いを抱えてやってくる様子が描かれています。明治19年、英語もキリスト教

も知らない小さい子にとって、普連土学園に入ることは、大きな勇気が必要だったはずでず。鎮子さんは、文化の違いに驚きつつ、コサンド夫妻から英語やクエーカーの教えを吸収し、新しく海外から来る先生方の通訳を務めるまでになりました。

これをお読み頂いている頃、本校初めてのチーム留学生が、ニューヨークに旅立っています。慣れない英語と現地校生活に戸惑っているでしょうか。3月にはこれも初めて中学生30名がカナダへ語学研修に行きます。いつの時代も、未知へのチャレンジは勇氣と忍耐が必要です。鎮子さんのように頑張り、かけがえのない経験をしてほしいと願っています。

(※注) 最初の入学生の意。当時は現在のような6年制ではなかった。樋口鎮子さんは6年生として卒業。)



『SUDDENLY THE SUN』表紙
(普連土学園図書館所蔵)

イエスが語られた譬え話の中でも「善いサマリア人」の話はとて有名です。追い剥ぎに遭い半殺しになった旅人を、祭司やレビ人ではなく、ユダヤ人から差別されていたサマリア人が助けた話です。

校友会クリスマス礼拝 12月7日(土)

善い隣人になること

ルカによる福音書10章25～37節

普連土学園 聖書科

山本 幸子 (68回生)

イエスこそこの世に現れた善き隣人でした。ご自分の命までも犠牲にして、助けを求めている人々を救われたのです。今でも私達の心の光として私達を導いてくれています。善い隣人はあちこちに居ます。私達も、善い隣人になる機会を逃さずに、内なる声に従って

行動して行きたいと思います。

私が善い隣人に助けられた最初の記憶は3歳の頃、満州の大連で姉やお里のお祭りに連れて行って貰ったときのことです。日本語を絶対にしゃべってはいけないうちに言われていたのに、高足踊りを見た私は思わず「お姉ちゃん、あの人が背が高いね」と叫んでしまい、「日本人がいる」と村人に囲まれてしまったのです。その時村長さんが止めに入り、「祭りの日に小さな女の子を傷つけることなぞ神様は望んでいない」と言ってくれ、私を助けてくれたのです。家で母は「善い人はどこにでも居る」と言って涙を流していました。

一番心に残っているのは、16歳で留学した時のことです。私は、海と空の長旅の末空港にたどり着きましたが、迎えがありません。夕闇が迫った頃、最後の女性客が迎えの青年と行きかけた時、私は勇気を出して助けを求めました。青年は私を家に連れて行き、受入れ家庭に連絡をとってくれました。やっと家族に会えた私は心からほっとし、その青年に感謝しました。



最後はふと目にした記事です。

アメリカの教会で起ったクリスマスの降誕劇での出来事です。一番楽な役を割り当てられたダウン症の少年のせりふは「家はいっぱいだ。よそに行ってくれ」というだけでした。身重のマリアとヨセフを拒む宿屋の主人役です。いったん戸をボタンと閉めた少年でしたが再び顔を出し、「僕の部屋なら空いている」と言ったのです。ヨセフとマリアは固まり場内も静まりかえりました。次の瞬間、ぱらぱらと拍手が湧き起り、次第に割れるような拍手になりました。これこそが、クリスマスの精神だと皆が悟ったからでした。舞台上で讚美歌合唱が始まると、会衆もそれに加わり、歓喜の大合唱が会場に響きました。

私たちも、善い隣人となって、クリスマスの喜びを多くの人たちと分かち合いたいと思います。

懇親会

クリスマス礼拝には91名が参加、続いて懇親会がローズホールにて開催されました。手芸品、アクセサリー、ガレットなどのミニバザーや聖坂 Friends のコーラス、一同が声を合わすクリスマスキャロルに、こうして

普連土のクリスマスを迎えられたことを嬉しく思います。今回はバザーでも好評だった史料室による8ミリフィルムの上映、山中湖キャンプのしおりの展示がありました。普連土のどの時代の写真や映像を見ても自分が在学中のものと思えるほど生徒の雰囲気や仕草が変わらない。これが伝統というものなのかと受け継がれていく「普連土らしさ」を思う一日となりました。

聖坂 Friends のハーモニ



Back to 1968



和気あいあい

校友会 バザー

2024年11月23日



前回の課題を踏まえ、来場者の皆様に「来て良かった」と感じて頂けることを願い、今回も校友会バザーを開催しました。

皆のお目当てのガレット、大福、ふれんどらや雑貨など委託販売の品々。何があるか楽しみな手苦皿、アクセサリ売り場や東京月会のブースのほかに、今回は新たに校友会事務局ブースを設け、活動内容やイベントの紹介、リニューアルした校章入りタオル、幹事会で起用しているお菓子の販売を行いました。

また、今回は2つの特別イベントがあり、どちらも好評でした。

卒業生と在校生からなるCono Mughettoのミニコンサートでは、お買い物のお間に清らかな歌声に心癒され、一緒に校歌も唄いました。史料室による1968年の8ミリフィルムの上映会では、

1968年頃、生徒さんだった校友生は当時を懐かしく思い出し、バザーとは違う楽しい時間をもてました。

お天気に恵まれ、気温は低いものの来場者の笑顔と熱気に包まれ、盛況にバザーを終了することが出来ました。これもひとえに準備、設営、片付けなど見えない部分や、様々な立場でお手伝い頂きました102名の校友生と多くの外部ご協力者の皆様のお陰です。この紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

校友会バザー委員会

93回生 笹岡香代子

2024年度校友会バザー・ミニバザー収益

2024年12月31日
単位：円

摘要	売上	仕入	収益
委託部	833,690	452,400	381,290
手芸部	280,040	0	280,040
アクセサリ部	80,600	0	80,600
事務局	65,900	46,349	19,551
計	1,260,230	498,749	761,481



受付前の行列



校友生と在校生の合唱がA音楽室に響きました



今回は校友会単独開催

昇降階段上に会場案内図とプログラムを掲示



校友会事務局ブースではオリジナルグッズも好調な売れ行き！



懐かしい先生や校友生との交流も楽しみの一つ

私と三代の校長先生に何う

Q&A

- Q1 好きな讃美歌と聖句
- Q2 学校の中で一番好きな場所とその理由
(先生方の写真はその場所で撮影しました。)
- Q3 在任中生徒を誇りに思ったこと
- Q4 在任中一番心に残った思い出

LOUISA

HATANAKA



1998.4 ~ 2009.3
畠中ルイザ 元校長

A1

讃美歌…326番(「光に歩めよ」卒業式に必ず選んだ)
聖句…テサロニケ人への第一の手紙5章19節(御霊を消してはいけない)

A2

①講堂の最後列の席
皆が一堂に会して話を聞いたり沈黙を守ったりしている姿が目の前に広がり、一体感が心に focus をもたらす。
②図書館横の階段から上がるテラス
学校全体が一望できる気分の良い場所。

A3

奉仕活動に行った後、先方から御礼の言葉をいただいた時。また友達を思いやり校長室へ相談に来る優しさ。

A4

普連土学園とは50年以上の関わり。人生の全てはその中にあり、ひとつを選べない。

A5

まず、生徒も教職員も校長室に来られるように努めました。礼拝にも注力した。6学年に亘る生徒のうちどの年代に話も向けたらよいのか悩んでいた際に池田初子先生から頂いた、「迷うことなく中学1年生」とのアドバイスを貰っている。また礼拝は私がときどき英語で話し、隣で応募者の中から抽選で選ばれた高3や高2の生徒が通訳をした。壇上で訳してい

TAKAO

HAMANO



2009.4 ~ 2017.3
浜野能男 前校長

A1

讃美歌…467番(思えば昔)
聖句…ルカによる福音書22章31〜33節(ペテロの離反を予告する)

A2

静黙室入り口の山中湖寮八角堂柱
山中湖寮の色々な思い出が見る度によみがえります。

A3

学校でも奉仕先でも、一生懸命掃除をしている生徒を見る度に、これが普連土の生徒だなと思いました。

A4

在任中新型インフルエンザが流行し、学園祭を中止する学校もありましたが、校外のコンクールに参加しない文化部の生徒にとっては年に一度の、高2の生徒には最後の成果の発表の機会と思い、開催を決定したことでしようか。

A5

自分の思いではなくそれまで普連土学園が大切にしてきたことを変わず守っていくことが自分の責任とと思っていました。

A6

女子校は女性がその特質に沿って成長していくのにふさわしい環境を提供していると思います。

A7

学園が大切にしてきた、どの人も大切に

NAOTO

AOKI



2017.4 ~
青木直人 校長

A1

讃美歌…531番(こころの緒琴に)
聖句…ヨハネによる福音書8章1〜11節(「罪の女とイエス」のエピソード)

A2

静黙室
クエーカーらしい静謐な空間で、祈りに集中しやすいから。

A3

かぞえきれないほどありますが、最近の出来事からカンボジアアキラプロジェクトの学園代表選考で、選ばれなかった生徒が選ばれた生徒に対し、「もうすぐカンボジアだね。がんばってね」と、きわめて自然に声かけをしていたこと。自分が必ずしも喜べない時に、喜び他者と共に喜べる心ばえの貴さ。

A4

現在進行中のことなので、まだ選べません。

A5

会衆主義教会系学校群の一つとしての矜持を失わないこと。学園も、そこで学ぶ生徒たちも、神さまからお預かりしているのだという謙虚さを忘れないこと。

A6

とくに中学高校という時期は、明らかに男女で成長のカーブが違うので、別学が最適と考えています。ジェンダーバイアスがかかりにくい環境は、何にも代えが

- Q9 普連土生に期待したいこと
 Q10 校友会に期待すること／校友会は学園にとってどんな存在ですか
 Q11 校友生に一言
 Q12 もし生まれ変わったらまた普連土学園の校長を引き受けますか

- Q5 校長としてのポリシー
 Q6 女子校の意義をどう考えますか
 Q7 偏差値などと普連土学園の校風のバランスをどのようにとってきましたか
 Q8 普連土生として大切にしたいこと、身につけて欲しいこと

る上級生に憧れの眼差しを注いでいる中学生の姿が見えるのも嬉しかった。

A6 女性として「あるがままでよい」という自信を持ち、リーダーシップを育むのにもとても相応しい環境であると考ええる。

A7 普連土学園が大事にしていること、礼拝、相手の立場になり話し合いで物事を進めること、視野を広げてくれる奉仕活動や国際交流；それらを維持し、そして教師がはじめに教えることが大切。偏差値を上げることも良いが、まずは生徒が素直に育つ環境を整え、自分の力で生きて行くことを重視している。

A8 流行に流されず、慌てず、自分を信じ、周囲と手をつなぎ、社会の問題の解決を真剣に模索する。

A9 A8に同じ。

A10 卒業生について情報を集め他の卒業生や学校に伝え、また学校について卒業生に伝える、コミュニケーションの駅のような存在。現代においてはプライバシー保護の観点からその管理には難しい面もあるが、お互いの活躍・飛躍に生かせる場であって欲しい。

A11 御霊を消さないで、光に歩めよ。前向きに前向きに、明るく明るく。

A12 はい。日本語を自在に操れて、自分の伝えたいことを十分に伝えられるならばもう一回引き受けられることが考えられます。

A し、正直に、誠実に生きていく人に育っていくことは、世の中の変化にかかわらず人間の基本であり、それを実践し伝えていくことが生徒募集の根本、また日々の学習に真剣に、誠実に向かうことが着実な学力を育み、進学実績の向上につながるかと考えていました。

A8 毎日共に過ごす人々を大切に、毎日の礼拝、授業、掃除、自治会、クラブ、また学園祭、奉仕等、1つ1つなすべきことを誠実に取り組んでいくこと。これは人として当然といえば当然のことですが、それが自然に身についているのが普連土学園の生徒だと思います。

A9 A8に同じ。

A10 中学校舎維持基金の寄付を募った際に、九州の老人ホームから寄付を送って下さった校友生がいらっしやいました。直接多くの反応が寄せられることがなくとも、校友会の活動は普段は見えない多くの校友生にも大きな支えとなっていることと思います。

A11 たとえ目立たなくてもそれぞれの場で接する一人一人を大切に、正直に誠実に生きていって欲しいと思います。そんな人が人を、世を支えて行きます。これが普連土学園が大切にしてきた根本であり、人の生き方の根本と改めて感じています。

A12 いいえ。非常勤講師となり、授業準備や教材作成、英語の学習に勤しむ自分を思うと、やはり本来英語屋であって、学校全体を管理、運営するような立場には不向きであったと思います。

たいものがあります。

A7 知的探求と人格的鍛錬は必ずしも相反するものではないので、今はとくにそのことを意識せずにやっています。ただし、受験業界の軽佻浮薄な流行には流されぬよう意識しています。

A8 『普連土学園の栞』等でも共有していることですが、培った力を他者のために使うことの出来る成熟した大人に成長していったほしいです。

A9 フレンド派の「原理」を、キリスト教をトータルに捉えることによって理解し、普連土学園のあるべき姿の構築に参与してほしいですね。

A10 「今」「ここで」学んでいる生徒たちを応援してくれる存在であり続けてほしいですね。

A11 見えるところで、また見えないところで、祈り、支えてくださっている皆さまに、心から感謝申しあげます。

A12 いいえ。知らないことを知ること、自分の世界を広げることこそ学びの本質ですから、もし新たな人生を生かされるなら、全く経験したことのないことに挑戦し、自分の世界を広げていきたいからです。



創立137周年記念礼拝

津田仙から21世紀に生きる私たちへのメッセージ

130回生

柳田 和音かずね

私の出身である佐倉市の小学校では現在、は年に一度、仙の命日に、津田仙が日本に取り入れた西洋野菜や果物が使われた津田仙献立というものが提供されています。私はその給食を通して仙が西洋野菜を導入した人と認識し、中2の地域研究の時のテーマに「津田仙」を採用しました。その後も研究を続け、高2の時に論文を通して中学生からの研究を通して抱いた「津田仙が本当にやりたかったことって一体なんだっただろう」という疑問を解明することにしました。私は答えを見つけるために仙の功績を農業中心に、西洋野菜や果物の導入、仙自身の農業研究、民間への普及活動、海外との交流、その他農業とは関係のない活動の5つに分けて考えました。

それぞれの視点で仙の功績を分析してみると、仙が民間活動に長けていたこと、人々が生きて行くために必要不可欠な農業の地位を高めようとしたことがわかりました。よって仙が本当にやりたかった事は、民間主導で西洋野菜や果物やその農業方法を伝えていくことで、より多くの人に新しい食文化を取り入れてもらうこと、新しい作物を作ってより豊かな生活を



津田仙の献立給食

送ってもらったことだったのかなと思います。けれども私は、仙は明治政府に抵抗しなかったから民間主導でおこなったのではなく、人々の近くで一緒に農業をし、その景色を見ていたからこそ民間で活動を行ったのだと思います。これは仙が信仰していたキリスト教の「神の前ではみな平等」という考えにも共通するものです。実際、農業に関する活動でも農業に関係のない活動でも彼の活動の根本にはキリスト教があり、仙が精神面でキリスト教を大切にしていただけとかがえます。そして彼が学校や雑誌、本を出版して、時には自分の足で各地に教えに赴きながら農業を広めたことから、将来に生きる日本の多くの人々に必死に彼が取り入れた野菜や果物を残そうとしたのだと思います。そう考えると仙の活動はまさしく大成功だといえるでしょう。ただ仙の時代から100年以上経って、農業や食の問題が全て消えた訳ではありません。そしてその問題解決に仙の考え方なども応用できると思います。これからも私たちは、仙

が21世紀に生きる私たちに必死に残そうとした『農業や食は生活をより豊かにする』という考え方や作物・農法を大切にして、未来に残していくべきではないでしょうか。

仙の研究は私に視点を広く持つことの必要性和無駄な経験はないということを教えてくださいました。中高生活でとにかく迷ったら挑戦すると決めてきた私にとって、これは大きな自信になりました。そして、一つの史料から世界を広げ、一見分断されているように感じられるつながりを手繰り寄せて、現代に生かしていく歴史学の面白さも研究を通して気がつきました。今後この出会いに感謝しつつ、私が仙から学んだことを忘れずにこれからも頑張っていこうと思います。



運動会応援「チアガール」何でも挑戦しました

制限のない年度初めを数年ぶりに迎えることのできた今年度。マスクをしなくてよい、昼食時の楽しいおしゃべりも制限なしの日常生活を送っています。

中学2・3年生による新中学1年生への讃美歌練習会も、今年度は実施されました。終拜で各HR教室を訪れ一緒に讃美歌を歌います。美化委員会の中学2・3年生による掃除指導とともに、普連土学園の良さを引きついで欲しいと願っています。

宿泊行事も予定通り実施されました。中学1年生は、御殿場で2泊3日の校外学習「友人をよく知ろう」を行いました。

コロナ禍後、復活したもののひとつに施設を訪れての奉仕活動があります。昨年度から実施できていますが、今年度はより多くの活動ができました。

収穫感謝礼拝では以前はリンゴとミカンを集めていましたが、コロナ禍中にお米に変更しました。現在、園芸委員会はリンゴとミカン、他の生徒からはお米を集め、ブース記念病院に送っています。

法政大学とのワークショップで、中学校舎の測量に参加、作成した校舎模型がホワイエに展示されています。ご来校する機会がありましたらご覧ください。

学園祭はコロナ禍前よりも盛況です。多くの卒業生も訪れ、懐かしい顔に会うことができました。

数年前からクリスマスマスの期間、本校舎に点灯していた「ベツレヘムの星」。今年度は有志による点灯礼拝を実施しました。キャンドルライトを手に聖歌隊と讃美歌を歌い、そしてベツレヘムの星が点灯されました。礼拝後には暖かい飲み物（ココアが一番人気でした）も用意され、多くの生徒たちが暖かい飲み物を片手に歓談、クリスマスを迎える準備ができました。

12月になり講堂にはクリスマスツリーが飾られ、中学宗教委員の生徒が飾り付けをしました。クリスマス礼拝では池田正道先生のお話を伺います。

来年も、平穏な学園生活を送らせられるよう願っています。

(24年12月 松浦良知先生記)

八十歳になりました

傘寿を迎えられた69回生の皆様に浦口先生が描かれた絵葉書セツトをお送りいたしました。

お礼のお手紙をいただきました。

♥浦口先生の懐かしい「野の花」を贈っていただきありがとうございます。

♥私じゃない！と思った歳になりましたが、元気で過ごしていられることに感謝です。

♥お蔭様で金婚式も終えて夫婦共に素晴らしい人生を送らせていただいております。

♥伴侶に先立たれて20年、お蔭様でこの歳迄何事もなく過ごして参りました。里山の自然の趣きを味わいたいと蝶や小鳥の訪れてくれる庭作りをしながら草花たちに囲まれた日々を穏やかに過ごしています。

♥80歳代も主のお守りの内、元気に過ごしたいと思っております。

◆お便りを下さった方々(敬称略)

海野淳子 大森睦子 木村林泉水
中山セツ子 山田綾子

同窓会をひらきました

89
回生

2024年2月3日快晴。89回生は日比谷公園に佇む松本楼で還暦を自祝！する同窓会を開催しました。参加のルールはサムシングレッド。セーターやアクセサリ、お揃いのスカーフなど、それぞれの赤を纏って69名が集いました。飲んで食べて騒いで最後に校歌を3番まで歌い、あっという間の2時間でした。

皆が携帯を持つ時代、案内状に書かれたQRコードで出欠を管理、LINEで繋がり、住所不明の友とも連絡が取れました。89回生は10年毎に同窓会を開催。次は古希をみんなで祝う予定です。(名村 明日子)



このページの内容についてのお問い合わせは、校友会事務局（03-3451-7700）まで。

校友会だより

2025年度行事予定

◆校友会総会

日時 5月31日(土) 11時

事務会後の講演会

「ウン? ホント? 世の中の栄養情報」

講師 川口 由美子 (99回生)

管理栄養士

◆校友会クリスマス礼拝

日時 12月6日(土) 11時

会場 A音楽室

◆ミニ講演会

・二人で向き合った一軒家の実家終い

講師 石原 美帆子 (95回生)

ナレーター・イラストレーター

日時 4月19日(土) 13時

会場 Qセミナー室

・お金に関する疑問にお答えします

講師 鈴木 典子 (98回生)

ファイナンシャルプランナー

日時 7月12日(土) 13時

会場 Qセミナー室

申し込み不要です。沢山の方のご参加をお待ちしています。

今年度も沢山の講演会・講習会を企画しております。最新情報はホームページでご確認ください。



130周年を成人式を祝う

1月13日(月)、品川プリンスホテルにて130回生の成人を祝う会が開催されました。



た。今年は113名の卒業生と8名の先生が集い、ともに二十歳をお祝いしました。久しぶりに会った友人も多くなりました。が、在校時と同じような盛り上がりを見せ、とても賑やかな会となりました。また、立食パーティーではケーキが一瞬でなくなり、思わぬところで130回生らしさを実感しました。ここまで大人数で集まるのは卒業ぶりでしたが、また同窓会の開催を望むほど楽しい1日となりました。

(栗並 和花)

訃報

謹んでお知らせ申し上げます。哀悼の意を表します。

旧職員 江刺春子(小笠原)	24・10・26
42 佐藤寿美子(鳥村)	10年程前
48 小澤寿美子(浦山)	23・6
49 矢島 節子(山田)	24・10・19
50 木村 雅江(黒澤)	24・3
50 若松 智子(中島)	24・3・17
50 相澤喜久代(伊東)	24・10・7
53 谷村 和子(谷村)	24・4・7
54 小川 和代(黒澤)	24・4・14
57 松坂 圭子(青木)	24・4・14
60 中嶋 京子(橋本)	22・9・15
63 松岡 和子(北田)	24・5・7
64 池貝東志子(神谷)	24・5・4
67 高草木喬子(新藤)	24・9・12
71 柴田 恵子(阿部)	数年前

◆校友会事務局より

運営費納入のお願い
2,500円が校友会を支えています

口座記号 00110・8
口座番号 87932 (右詰)
加入者名 普連土学園校友会

郵便局より払込み。通信欄に回生・お名前・ご住所をお書きください。

校友生による全校礼拝

今年度も3人の方がお話しくださいました。

11月11日 川口 由美子 (99回生)

寄り添うと見えるもの

〜互いの重荷を負い合う〜

11月18日 山下千尋 (114回生)

普連土での経験は卒業してから

気づくことがある

11月25日 池之本直美 (95回生)

中高6年間「普連土学園」と縁

がなかったのかな」とても辛かった私が今ここに立っている経緯

編集後記

永らく校友会報の組版作業を担当していたワンダーウォールの鈴木様逝去され、今号より株式会社ステラ様にお世話になります。これまでを踏襲しつつ、全ページカラーになるなど新しさもある会報になりました。鈴木様のこれまでのご尽力と、繋いでいただいたご縁に感謝です。
(入江・森本・富山・大河内・佐藤・渡邊・石原・白樫・白井)

会報が届いていない方、住所、姓名に変更があった方は、QRコードより事務局にメッセージが届く可能性があります。

